

事務事業評価

令和 3 年度

担当課

道路課

基本事項	事務事業名	無電柱化事業					整理番号	1713			
	根拠法令等	無電柱化の推進に関する法律					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
	関連する市勢振興計画の基本計画	目標	基本目標1 自然と歴史、都市の魅力が調和したまちづくり			予算科目	8 款 2 項 2 目 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規				
		施策	施策1-1 自然と歴史、都市機能が調和するまち			事業区分	施設整備				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	島原駅と主要観光地である島原城とを結ぶ重要な路線は、張り巡らされた電線により都市景観が損なわれ、主要観光地としての価値を低下させる要因となっていた。					計画期間	始期	平成	30	年度から
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	島原市の玄関口である島原駅と主要観光地である島原城とを結ぶ重要な路線の無電柱化を実施し、都市災害の防止、都市景観の向上を図る。併せて、島原城周辺の歩道を整備し交通事故の防止、美しい街並みを形成する。					終期	令和	6	年度まで	
	目的達成のための 具体的手段・方法	島原城周辺の道路の無電柱化の手法について、電線管理者である九州電力、NTT、地元CATVと協議を重ね、現地の地形等から、裏配線や軒下配線での整備が不可能であったため、地中化により整備することで、平成30年度に合意している。									
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	1 年度	2 年度	3 年度				
		①工事実施延長(整備が完了するまでは成果指標が図れない) (当該事業は都市整備課で実施している都市再生整備計画事業「第3期島原市中心市街地地区」の関連事業であり、令和4年度に予定している都市再生整備計画事業の事後評価時に、アンケート調査等を行なう予定。)		目標	m	110	24.5	131			
				実績	m	110	0				
		達成率	%	100.0	0.0	0.0					
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	②		目標								
			実績								
			達成率	%							
事業費等の推移	年度		29 年度	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度			
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画			
	①直接事業費(千円)		0	7,546	20,202	41,083	34,000	113,000			
	財源内訳	国 県 支 出 金		3,625	8,120	21,666	16,830	62,150			
		地 方 債		0	6,000	4,700	14,500	48,200			
		そ の 他						70			
		一 般 財 源	0	3,921	6,082	14,717	2,670	2,580			
	②従事職員給与費 b1×b2		3,773	3,832	3,765	3,782	3,741	3,741			
	従事職員数(人) b1		0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50			
	職員平均人件費 b2		7,546	7,663	7,530	7,563	7,482	7,482			
事業費合計 ① + ②		3,773	11,378	23,967	44,865	37,741	116,741				

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 無電柱化は、災害の激甚化・頻発化、高齢者・障がい者の増加、訪日外国人を始めとする観光需要の増加等により、その必要性が増している。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能	-
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要	-
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 令和2年度は繰越事業として継続している為、実績は記入していないが、既に工事は契約済みであり、工期内に完了予定であり、令和3年度は工事起工済みである。	B
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 歩道整備と併せて整備することにより、更なる都市景観の向上を期待できる。	A
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 令和2年度は繰越事業として継続している為、実績は記入していないが、既に工事は契約済みであり、工期内に完了予定であり、令和3年度は工事起工済みである。	B
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 電線管理者と他の手法について協議を重ねたうえで、現行の手法を選択し、合意に至っている。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 他課が実施する築城400年事業に合わせて整備することにより、観光客等の更なる満足度が期待できる。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	-
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	-
			判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算
			2.67

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	無電柱化は、防災性の向上、安全性・快適性の確保、良好な景観等の観点からこれまでも実施されてきましたが、災害の激甚化・頻発化、高齢者・障がい者の増加、訪日外国人を始めとする観光需要の増加等により、その必要性が増している。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 無電柱化事業計画を策定するにあたり、電線管理者と協議を重ねてきたが、文化財部局とは島原城跡保存活用計画の策定完了まで協議が先延ばしになっていたため、今後、計画の見直しも含め再検討する必要がある。		
<small>・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。</small>			

【2次評価】

総合判定	B4見直しのうえで実施 ⇒ その他の見直し
備考	災害の防止、都市景観の向上などの効果は認められる一方で、費用対効果が不透明なところもあるため事業費低減に努めるとともに、島原城跡保存活用計画区域内の施工であるため文化財部局との連携を密にとり事業を進めてほしい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	79,000 (千円)